

淡路夢舞台の創造的再生に向けたあり方検討 中間報告の公表

令和7年3月に策定した「県政改革の基本方針」を踏まえ、県では「淡路夢舞台の創造的再生」に向けて、今後のあり方についての検討を進めています。

このたび、サウンディング型市場調査の結果や、外部有識者及び地元関係者等による議論などをふまえ、中間報告として「淡路夢舞台の創造的再生に向けた基本的な考え方（案）」をとりまとめました。

1 新たなデザイン・コンセプト作成の考え方

基本的な考え方



開発コンセプト（2000年開業）

◎守り引き継ぐべき価値
の評価・再定義

◎地域の課題を踏まえ、時代の変
化に応じた新たな価値の創造



次の30年を見据えた将来ビジョンの明確化と
デザイン・コンセプトの再構築



県の地域活性化方針等の反映

●兵庫県地域創生戦略（淡路地域の取組方針(2025.3)

【目指す姿】

人と自然の良質な関係が「環」となって広がり、誰もが安心して暮らし続けられる環境豊かな島

●兵庫県域の大阪湾ベイエリア活性化基本方針(2023.3)

【淡路エリアの目指す姿】

国内外からの人の流れと交流を生み出し、人とのふれあい、本物の体験等を通じて、暮らしの本質を思い出し、原点へと立ち返る場や機会を創出

●ひょうご新観光戦略（2023.3/2025中間見直し中）

<見直しの方向性 2025.7時点>

- 大阪湾と瀬戸内を結ぶ東西の結節点である本県を旅の目的地に。本県を宿泊拠点として広域観光する新たな人の流れをつくる
- 主要拠点と着地・体験型コンテンツを繋ぎ、県内周遊・長期滞在・宿泊を促進

【キーワード】

- 地域活性化・観光振興を先導する拠点性の強化
- 開発コンセプトのバージョンアップと公共的役割の再構築
- 県によるビジョンの明確化と、将来にわたる公民による共有・共創

2 各施設の運営方針（案）①

一体的運用（運営協議会形式）

施設名

方針

方針検討の視点

ホテル・ 展望テラス

ホテル
客室 201室
レストラン等を併設
展望テラス
フォーラム/回廊等
テラス内に事務所等
がテナント入居



民間への資産譲渡 （土地＋建物）

※「ホテル等譲渡後も、夢舞台の一体性・公共性を維持し、持続的な投資を促す具体的手法のあり方」について、引き続き検討を進める

- サウンディング調査において、「土地建物」一体所有を希望する事業者が多数
- 企業庁地域整備事業会計の早期健全化への貢献
- 民間投資の促進と地域活性化への効果
- 夢舞台全体の一体性・公共性の維持確保

淡路夢舞台 国際会議場

メインホール/レセプションホール/各種会議室/茶室 等



公の施設としての役割に区切りをつけ、民間事業者への譲渡を基本に、資産の有効活用を図る

- 周辺環境の変化に伴う県施設のあり方の見直し
- 社会情勢等も踏まえたより有効な資産の活用
- 県民負担の軽減
- サウンディング調査において、施設保有への関心は高くないため、条件や方法等の工夫が必要

2 各施設の運営方針（案）②

一体的運用 (運営協議会形式)	百段苑 阪神・淡路大震災の鎮魂が込められた百マスの花壇		指定管理継続 ※民間事業者の創意工夫を発揮できるような公募を検討	●サウンディング調査において、指定管理に関心を示した事業者が複数 ●公共性の維持と「自然との共存」や「環境再生」の象徴 ●民間事業者の創意工夫の発揮 ●利用者の拡大策や収益力の向上
	温室 (あわじグリーン館) 花と緑の感動創造・情報発信型ミュージアム			
	野外劇場 淡路島の空と海を背景とした円形劇場			
	灘山緑地 土砂採取跡地に緑を回復した都市公園			
	交流の翼港 新しい玄関口として整備した海の公園機能も備えた港			

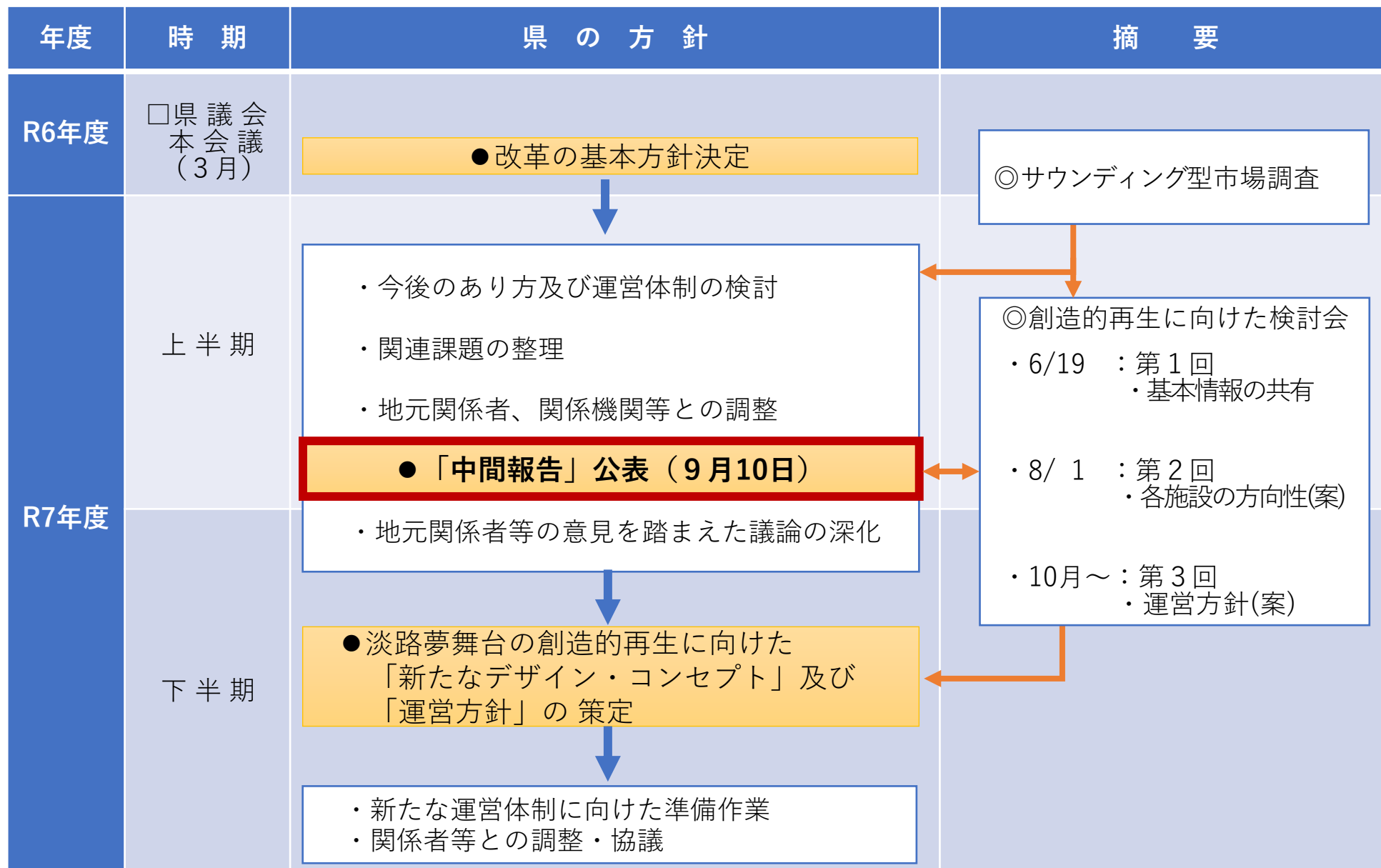
※いずれの施設においても、県政改革方針に記載のとおり「従業員の雇用の確保を基本」とする。

中間報告の詳細については、
こちらをご覧ください

URL <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kc01/yumebutai/status-review.html>



3 淡路夢舞台の創造的再生に向けたスケジュール（案）



※新事業者による運営は、R9年度以降を想定

【参考】淡路夢舞台の概要

1 開発コンセプト（2000年開業）

- 大阪湾ベイエリアにおける一大国際交流拠点として開発
- コミュニケーション都市をめざす「淡路島国際公園都市」の中核施設として、様々な夢が織りなす大スケールの夢舞台を創造するため、
 - 土砂採取跡地に緑の自然を復元
 - ダイナミックな斜面を有効利用して花と緑にあふれる美しい景観を形成
 - 人々が集い交流する主要施設を整備
- 阪神・淡路大震災で失われた命への鎮魂、自然環境の再生をテーマとした、創造的復興のシンボル・プロジェクト

2 運営状況

- ・各施設の運営は(株)夢舞台（県企業庁出資の第3セクター）が担当、施設の所管は県庁内の複数部局で分担
- ・ホテルは、企業庁から賃貸借契約により資産を貸し付けたうえで運営
- ・その他公の施設（国際会議場、百段苑、温室、灘山緑地、交流の翼港 等）は、指定管理制度により運営

県政改革基本方針（R7年3月策定）

- 大阪湾ベイエリアの新たな展開を見据え、地域の活性化を牽引する拠点として淡路夢舞台を創造的に再生する。
- このため、ホテル等の企業庁保有資産の維持管理・運営に民間活力を導入する。「資産譲渡」又は「運営権設定」を基本に検討を進める。
- この方針を踏まえ、公の施設群についても、既存の利用形態にとらわれず今後のあり方を検討する。その際、夢舞台としての一体的運用に意を用いる。
- 運営手法の決定にあたっては、淡路夢舞台の地域における公益的意義に留意するとともに、従業員の雇用確保を基本とし、関係者の意見も踏まえつつ丁寧に議論を進める。



施設名称	管理運営	施設所管部局	備考
①ホテル (グランドニッコー淡路)	(株)夢舞台	企業庁	貸 付
②展望テラス		企業庁／ まちづくり部	貸付／ 指定管理
③国際会議場		産業労働部	指定管理
④百段苑			
⑤温室 (あわじグリーン館)			
⑥野外劇場			
⑦灘山緑地		まちづくり部	
⑧交流の翼港			